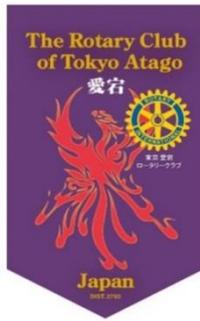


# WEEKLY REPORT 2014~2015



## 東京愛宕ロータリークラブ

会長 尾関勇 ・ 幹事 佐藤秀樹  
 副会長 石渡美奈 ・ 副会長 片山謙次  
 副会長 波多野まみ  
 例会場 東京アメリカンクラブ  
 例会日 毎週火曜日 8:00~

### ~四つのテスト~

1. 真実かどうか
  2. みんなに公平か
  3. 好意と友情を深めるか
  4. みんなのためになるかどうか
- 言行はこれに照らしてから行うべし

2015年4月7日(火)  
 今年度第35回(通算71回)例会  
 本日のプログラム

<卓話>  
**ROTEX (2010-11年度ブラジル派遣)**  
 中村 千晶 様

■2015年3月24日 会長挨拶  
 会長 尾関 勇

本日も内容が大変充実した、社会的影響力のある方をお呼びしておりますので、朝から勉強させていただければと思います。

いよいよ3月最終例会となりました。4月に入りますと、創業支援塾もラスト4回目がございます。ロータリーは4つの奉仕ということで、職業による奉仕、青少年への奉仕、社会的奉仕、国際的奉仕、と4つの柱で成り立っております。この東京愛宕創業支援塾は、職業による奉仕と社会的奉仕の二つが兼ね備えた奉仕プロジェクトとなっています。2750地区99クラブある中でも、異色な事として、他はもう少し年少のお子さんにものを教えたり、またはシニアの方へのプロジェクトや車いすの寄贈等がありますが、大変私達らしいプロジェクトだと思っております。どうぞ皆様、4月22日(水)お忘れなくお集まり頂きたいと思っております。

また現在グローバル補助金の申請が99%まで来まして、シアトルRC会長のサイン待ちの状況です。直筆サインの入って書類をアップロードすれば完了となります。昨日グループ協議会でも話しましたが、グローバル補助金の申請方法は愛宕しかほとんどわからない状況のようです。何か事業を行うクラブが5000ドル集めれば、2750地区で15000ドルという金額が上乘せされます。これは日本のロータリーだけです。さらにワールドファンドから5000ドルの半分とDDF、つまり地区補助金の15000ドルと同額分計17500ドルが補助されます。37500ドルのプロジェクトができるということです。ただ申請が大変で、全ての説明を英語で行う必要があります。一番のポイントはエバンストンの本部の方と英語で質問のやり取りをしなければならない点です。恐らくロータリーでは先進国同士で補助金を使うのは今まで例がない事でした。4月15日からシアトルRCに行って参りますので、皆さん報告を楽しみにしてください。

■3月24日のプログラム

<卓話>  
**国境なき子どもたち 会長 寺田 朗子 様**

まずは「国境なき子どもたち」がどういう団体か簡単にお話させていただきます。1997年に日本で設立された非営利団体です。スタートは国境なき医師団の傘の元でした。日本の子どもたちに世界の子どもたちの状況をより理解してもらい、「共に成長する」ことを目指して行こう、と生まれました。主にアジア地域で、路上で暮らす子どもたちの自立支援を目指して活動をしています。2010年に認定NPO法人として承認されました。これは寄付金が税金控除の対象になるという、ご寄付をお願いしやすい団体です。

私はたまたまフランス語が少しできるということで国境なき医

師団の日本事務所立ち上げ時に事務所ボランティア第一号として手伝うことになりました。そして1999年にノーベル賞の授賞式に出るという普通の主婦には出会うはずのないチャンスもいただきました。その後、国境なき子どもたちに関わり、色々な場所で色々な子どもたちに出会うチャンスをもたらしました。ただの「家庭の中のお母さん」がこんなたくさんの方々に出会った経験をいただきましたが、本日は皆さまにその子どもたちの様子を写真で見せて頂きながら、活動についてもご理解をいただければと思います。

ストリートチルドレンという言葉は皆さまよくご存じかと思いますが。街の片隅で路上で実際に暮らしている子どもたちは世界で1億人以上と言われており、ほぼ日本の人口に匹敵します。非常な貧しさや親の暴力、兄弟が多くて食べ物が満足にない、親の病気などで売られてしまい故国に送還されていく先のない子ども、ちょっとした盗みなどで刑務所へ入り、出所後戻る場所の無い子どもたち、こうした様々なケースで家に戻れない子たちは、都会に行けば何とかできるという思いに駆られて街に出ていきます。本当に路上で暮らしています。どこかで拾ってきた敷物を敷いて、そこで家族皆で暮らしているようなことはいくらかでもあります。厳しい中で暮らしているのに意外とニコニコとそれなりに自分の状況を受け入れているように見えるのには戸惑いました。でも中には学ぼう意欲を失っていない子も多くいますので、チャンスを持たせることができるといいのですが。女の子の場合には必ずと言っていいように起こることがあります。10代半ばで子どものいる女の子はたくさんいます。路上で暮らすということはこういった危険と常に背中合わせということ。そして生まれた子どもはそのまま生まれた時から路上で暮らすこととなります。貧しさの連鎖が続きます。

フィリピンでは、マニラの何か所かで一週間に一回食事を配ります。その地域にいる路上暮らしの子どもたちの状態を確認する機会になるからです。食事のために来る子たちのリストを作ります。もちろんお弁当の数の確認のためですが、この作業は同時に、継続してそこにいる子、来なくなった子、体調の悪い子、新しく来た子、学齢になった子、など把握する基本になります。また、行政では「この地域には路上暮らしの子はいない」という調査結果を出していたりしますが、実際には多くの路上暮らしの子どもたちがいて、私たちは自身でその数を把握できるのです。私がついて行ったときに、お弁当を待っている間に「寺田さん、何か話してください」と言われましたが、私のつたない英語、むこうも英語がわからない子がいっぱい、私は現地のタガログ語がまったくわからない。話の中身にしても、何して毎日過ごしているの?とか、学校行きたい?とか聞くわけにいかないし、いたい私は何を話したらいいんだろうと困ったのをよく覚えています。

時折こうして食事にありつきますが、日頃はこの子たちは毎日生きていくためには何とか収入を得なければなりません。できることを探します。大きな荷物を運んだり、ごみの中から売れそうなものを拾い集めたり、物乞いをしたり、自分なりの工夫をして生きることを考えていきます。食べ物もお金も手に入らないとき、逃避先になるのが安くて手に入りやすい接着剤。ビニールの袋の中に入れて吸います。

子どもたちに聞くと、接着剤を吸うことで3日間くらいは空腹を忘れることができる、お母さんに会いたいんだけどそれも忘れることができるのだそうです。悲しい話です。

また空腹から盗みをした場合の行く先は刑務所になります。でも刑務所を出された時、学ぶ機会もないままにそこでの時間を過ごしていると、社会に出されても働くこともできず、また刑務所に戻る繰り返しになります。そこで刑務所内でも勉強をしたり、絵をかいてカードを作ることを覚えたり、床屋のハサミ扱いを覚えたりして、社会での働きかけを作れるよう手助けをしています。男の子にしても女の子にしても、親と同じ人生を過ごさないで済むようにするには私たちに何ができるのか、この連鎖を断ち切るために何ができるか、とてつもなく大きなテーマです。私達のような決して大きいとは言えないNGOでは、たくさんいるこうした子どもたちを全部を丸抱えに何かをすることはできません。私達の手の届くところに救いを求めてくる手に応えて、ともに前に進む、ということしかできませんが、その中で一人でも多くの子どもたちに笑顔が浮かぶようにコツコツと仕事をしています。

カンボジアではバタンバンという町に「若者の家」というところがあります。いろいろな団体からのご寄付で建物を一つずつ建ててゆきました。そこは若者が暮らせる場所です。昨日まで道で暮らしていた子どもたちが、ここに来れば清潔なベッドで寝られ、ご飯も贅沢ではないけれどきちんと三回食べられ、学校に通い、将来に向けての職業訓練を受けることができるようになってきました。施設の中では、絹を織ったり、縫製を習い小物製作をしたり、籐の家具を作ったり、また外で車の修理等を学んだり、美容師理容師の研修を受けている子もいます。将来の自分の生活を作ることができます。R君は初めて会った時まだ少年でした。私達にべったりくっつき離れませんでした。勉強をしたいと若者の家に来ました。何年もしっかりと勉強をしていました。会うたびに大きくなっていきました。勉強が大好きで大学に行き、2013年にアンコールワットなどの案内をする「オフィシャルガイド」となりました。クメール語に英語、ドイツ語を覚え、今スペイン語も習っています。ガイドは収入が良く、子どもたちの中の出世頭の一人だと言えます。彼の

ひとなつこい笑顔がたまりません。

フィリピン、マニラ郊外にも「若者の家」があります。ここでは少人数の子どもたちを預かっています。コンピューターや縫製や英語の授業をしています。ゴミ山や極貧の地域でも、子どもにも学ぶ必要を少しずつ浸透させて行きました。パヤタスにはKnKのセンターができて、寺子屋風の授業も行われ、環境は少しずつよくなっています。

東日本大震災の前の年ですが、この地域はひどい台風に襲われました。その時100人を超す家を流された子どもたちを完成したての若者の家に預かったことがありました。そして東北の震災後、1ペソ(2円)のキャンペーンを子どもたちが自分たちで考え、台風の時の恩返しと募金箱を作り、1日1ドルの稼ぎで暮らす人達が2円のお金を募金してくれて、総額7万2千円くらい送ってくれました。重さの全く違うお金なんです。あの授与式には凄く感激しました。台風の時どれだけ有り難かったか、だから日本の為に来ることをしたいんだと。心はこうやって繋がっていくんですね。

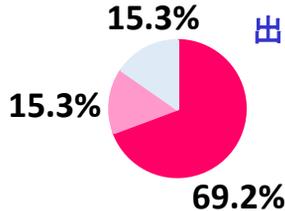
国内ですが、震災後に岩手で仕事をしています。私達の東北の活動のシンボルとなった少年もすでに大きな男の子になっていました。時間が経った今でも、まだまだ厳しい状況で東北の方々が暮らしておられることをしみじみ感じています。

小さなNGOにできることはわずかでしょう。でもその手が繋がることで「共に成長するため」何かができると思います。皆さまも何かの機会に国境なき子どもたちのことをぜひ思い出してください。



◆◆ 出席報告 ◆◆  
2015年3月17日 出席状況

- ・会員数 26名
- ・出席者 18名
- ・ビジター 0名
- ・ゲスト 2名



出席率内訳

- 当日出席数(18)
- 修正出席数(4)
- 欠席数(4)

修正出席率  
**84.6%**

《目標出席率》  
本例会50% 修正100%

◆ニコニコBOX◆ ¥16,000 累計総額 ¥427,506

・本日は特に興味あるテーマで楽しみにして参りました。寺田さんありがとうございます。(尾関)・だいぶ暖かくなってきましたね。本日、寺田様の卓話を楽しみに来ました。(柳)・卒業式のシーズンですね。新しい世界に旅立つ人たちにお祝い申し上げます。(塩沢)・三寒四温といった感じですね。体調管理にお気をつけ下さい。(丸山)・東京もいよいよ開花へ！春ですね。本日は寺田さんの卓話楽しみです。(若山)・本日メイクアップに参加させていただきました。ありがとうございます。(築地RC・多田佳嗣様)

4月・5月のプログラム

- 4/14(火)イニシエーションスピーチ:加藤俊吾会員(株式会社アフィニティホールディングス代表取締役社長、愛宕RCロータリー財団委員長)
- 4/21(火)卓話:ブライアン・バーバー様(日本難民支援協会渉外部部長)
- 4/28(火)例会後、8:30~クラブ協議会(ビジター・ゲスト様にはご退席いただきます)
- 5/ 5(火)休会(祝日による)
- 5/12(火)イニシエーションスピーチ:塚田尚也会員(株式会社イクシア代表取締役、愛宕RC出席奨励副委員長、広報戦略委員)
- 5/19(火)休会(規定による)
- 5/26(火)大西洋様(株式会社三越伊勢丹ホールディングス代表取締役社長)

国際ロータリー第2750地区

東京愛宕ロータリークラブ

<http://atagorotary.com/>

<事務局>

〒106-0044 東京都港区東麻布2-15-2 アンゼン・パックスビル2階

TEL:03-3568-3827 / FAX:03-3568-3829 / E-mail:office@atagorotary.com

広報戦略委員長 柳 邦明

